

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月14日実施)	総合評価 (3月23日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①幅広い学習ニーズに対応する多様で柔軟な教育課程を展開する。 ②「確かな学力」向上のため組織的な授業改善を推進し、生徒が主体的に考える力を育てる。	②「確かな学力」向上のために教育課程の編成及び授業改善を行い、生徒の学習意欲の向上を図る。	②教員相互の授業見学や研究授業、研究協議を活性化させ組織的な授業改善に取り組む。	②生徒による授業評価や生徒学力調査の結果。	来年度から「体育コース」の募集がなくなるが、スポーツに関わる科目については一部学校設定科目として設置するとともに、教育課程全般を見直し、生徒のニーズに対応する科目選択にするなど教育課程の改編を行った。 外部講師による「数学のおもしろさ」をテーマにした授業形式の講演会を生徒と教員で受講し、主体的に考えることを学んだ。 近隣の荏田南中学校と相互に授業見学を行い相互の授業力を高めた。	平成34年度実施の新しい学習指導要領に則った教育課程の編成に着手するため、現行の課題点を整理するとともに本校の教育理念を確認していく必要がある。 「生徒から始める授業改善」(生徒が主体的に取り組める授業)を引き続き学校の全体目標として共有し、研究テーマを明確にした研究授業を各教科で実践する。また、同一教科以外の授業見学者の数を増やし、様々な言語活動の充実を図った授業を見学することにより授業改善を行い、生徒の学習意欲の向上を図る。 引き続き相互に授業見学を行い、すぐれた点を取り入れ授業力の向上に努める。	(学校評議員) ・評価だけでなく、分析を元に検証する様に出来ると良い。 ・授業見学の際、教室のドアが開いていないと見学し辛いので開放した状態だと良い。 (PTA運営委員) ・外部講師による授業形式の講演会等は良い経験だと思った。 ・教員相互の授業見学を行っている事は評価できる。教員の年齢や経験関係なく率直な意見交換ができると良いと思う。	・県立高校改革による「体育コースの募集停止」にともなって、平成29年度に入学する39回生の教育課程の編成に多くの時間を割いて、よりよい方向性を見い出すことができた。 ・「生徒から始める授業改善」のテーマで授業研究に取り組んできたが、多くの教員がそのテーマを意識して授業に臨むようになった。 ・荏田南中学校との相互の授業公開は、お互いの教員の励みにもなり、刺激にもなったが、公開授業時に教室のドアが開いていない等があり、次年度の課題になった。	・39回生の2年次の選択科目に導入予定の「ライフスポーツⅠ」の内容を精査し、「体育・スポーツによる人材育成」の良き伝統を引き継げるようにする必要がある。 ・今後は荏田南中学校ばかりでなく、荏田南小学校にも協力を得て、数年後を見越した授業改善に取り組んでいきたい。 ・ベテラン教員の授業を若手教員がどのように継承していくかが、この2～3年の大きな鍵になるので、よりよい授業研修の機会を設定したい。
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	①「健やかな体」と「豊かな心」を育成し、心ふれあう教育を推進する。 ②部活動や生徒会行事を通して生徒が自主的・自立的に活動する姿勢を育成する。	②部活動及び生徒会行事の活性化を図る。	②部活動の顧問やインストラクターの配置基準を見直し、部活動等振興費の適正な運用を確立させ、全校的な支援体制を整備する。 ②新入生歓迎会やHPでの宣伝広報活動を強化し、加入率を高める。 ②生徒会行事の検討時間の確保と企画決定方法の見直しを図る。	②新たなインストラクター配置基準の策定と予算の執行と運用の状況。 ②部活動加入率が80%を超えたか。 ②準備期間の状況と企画決定ルールとの策定とその運用状況。	危険度の高い部については優先的にインストラクターを配置した。 部活動の遠征の補助を部活動等振興費を新設し一元的におこなった。 部活動加入率は77%で例年並みであった。 体育祭の企画検討時期を早めた。 青群祭の食品販売団体の決定にプレゼンテーションによる審査を導入した。	インストラクターを必要な部全てに配置できず、基準の整備が必要。 予想以上に部が活躍し部活動等振興費が不足した。予算規模について毎年の検証が必要。 部活加入については、運動部よりも文化部への勧誘が課題。 体育祭は体育コース廃止にともなう組み分けが急務。 青群祭のプレゼンについては、方向性には賛同を得ているので、日程や落選クラスのケアについて検討。	(学校評議員) ・部活動に関わる顧問やインストラクターの人数が多いと、部内の連携が難しくなるのではないかと懸念される。 ・部活動振興費の徴収方法の在り方について今後も検討していく必要がある。 ・部活動の成果として素晴らしいものがある。今後の活動に期待している。 (PTA運営委員) ・部活動振興費の見直しが必要。 ・生徒一人一人の個性をとらえ適切に指導していただけたと思う。	・「部活の荏田」を支えていくには人的な側面と経済的な側面の両輪が必要である。今年度は多くの部活動が活躍したため、新設した「部活動等振興費」が不足するという事態が起きた。まさに「嬉しい悲鳴」ではあるが、徴収方法等も含めて検討が必要である。 ・青群祭の出し物の「プレゼンテーション導入」はこれからの時代に合った新しい取組として評価できる。	・部活動指導に関わる教員及びインストラクターが上手に連携を取り、生徒の活動を支援するような体制作りを整備したい。 ・部活動加入率がまだ低いところがあり、入学前のHPによる情報提供や新入生歓迎行事等の更なる工夫が必要である。 ・部活動や学校行事がコミュニケーション力、プレゼンテーション力の醸成に大きく寄与することは、今後も検討を重ね、本校の大きな特徴にしていきたい。

3	進路指導・支援	生徒一人ひとりのキャリア形成を助長する進路支援の充実を図る。	個々の発達を踏まえた「キャリア教育実践プログラム」の充実を図る。	本校の「キャリア教育実践プログラム」についてさらなる検証を実施するとともに、体育コース解消となる平成29年度以降を見据えた「キャリア教育実践プログラム」を作成する。	本校の実状を踏まえた「キャリア教育実践プログラム」を作成できたか。	関係部署との連携をはかり、現状を踏まえた「キャリア教育実践プログラム」を作成した。	学校を取り巻く状況は年々変化をしており、4年間の目標を念頭に置きつつ細かな見直しが必要である。今後も情報のアンテナを張り巡らせより良い「キャリア教育実践プログラム」作成に努めていく。	<p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高大連携をはじめとして教職員の様々な支援の成果が整調な進路実績として表れている。 ・綿密な計画を基にした学校運営がされており、この大きな改革を乗り切って欲しい。 <p>(PTA運営委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路に関して、生徒が受け身でいると、何の情報が入ってこなく、もっと積極的に考えて欲しい。 ・進学・進路の情報をもっといただけたらと思う。 ・3学年の担当の先生は大変かと思いますが、進学・進路等の情報のアンテナをより張って欲しい。 ・生徒の気持ちを考えたキャリア教育の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携に関わる情報が分散してしまっているため、取りまとめを図りたい。 ・進学実績のみが問われてしまうことが多いが、本校の3年間での取組は学習面だけではなく、「人間としての成長」を促すことにもつながっている。 ・生徒の進路希望に合わせた様々な取組を行ってきたが、保護者への情報提供という視点がやや不足しているように感じる。 ・指定校推薦等で早めに進路が確定した生徒の姿勢が課題になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路支援、学習支援あるいは保健体育科による高大連携の取組を系統的に把握し、生徒のニーズに応える形にしたい。 ・「体育コースの募集停止」は平成29年度入学生の進路にも大きく影響する。学校全体として将来、体育系を目指す生徒も少なからずいるので、一年次からの情報提供に努めたい。 ・3年生の秋以降に進路が決まった生徒のモチベーションについては、毎年課題になっている。「合格」はスタートであってゴールではないことをしっかり教える必要がある。
4	地域等との協働	地域社会との協働および交流を通して、地域とのつながり・絆を強化し、地域とともにある学校づくりを推進する。	近隣小中学校や自治会等と連携した地域貢献活動を行い、仲間と協力して自己の能力を社会のために役立てる意義を考えさせる。	自治会行事や介護施設でのボランティアの参加を昨年度以上に推進する。また部活動生徒による出前技術指導を実施し、近隣の小学生を招いての書道交流も昨年度同様に年に1回実施する。	自治会行事や介護施設でのボランティアの参加者が昨年比で5名以上増えたか。また部活動出前技術指導や書道交流が実施できたか。	自治会行事や介護施設でのボランティアの参加者が昨年比で5名以上増えた。また部活動出前技術指導や書道交流が実施できた。	ボランティア活動への参加率が低い。ボランティア活動のあり方について、学校としての方針を明確にして、計画的に企画・実施・検証し、参加率が高まるように定期的な情報提供に努めたい。	<p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で荏田校生の存在は大きく、小中学生への指導、ボランティア活動、防災時の役割など様々な面で期待をしている。 <p>(PTA運営委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流を引き続き実施することは良い経験になると思う。 ・担当者だけでなく、各教職員に地域に興味をもってもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ボランティア活動」そのもののあり方に課題が残る。あくまでも「強制」ではなく、「自主的に参加」するように仕向けなければ、本義を損なうことになってしまう。以前から課題になっていることであり、工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のニーズにともなう情報をわかりやすく提供することで、生徒が参加しやすい活動としてボランティアを捉える必要がある。 ・ダンス部が都筑区のイベントで行っていることやジャグリング部が地域の祭りで行っていることのようにウィン・ウィンの関係が増えるようにしたい。
5	学校管理 学校運営	①信頼に根ざした学校づくりを推進する。 ②不祥事・事故防止の徹底を図る。	②県費・PTA諸会費等の透明で適切な執行の徹底を図る。	②各担当者だけでなく、学年やグループで内容を共有理解し、お互いが適切な執行を行えているか確認をしていく。	②情報を共有し内容を確認して、不適切な経理が防止できたか。	各担当者だけでなくグループでの情報共有を図り、予算の執行を行うことができた。	PTA役員が会計の処理にとまどい執行に時間がかかることがあった為、今後は年間の執行予定や作業マニュアルを作成し、よりスムーズに進められる様にする。	<p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA会費から部活動振興費への拠出において公平さが損なわれいく必要がある。 <p>(PTA運営委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA会計について毎年やり方が変わるので、統一したマニュアルがあった方が良い。 ・多くの方がPTA活動に参加しやすい工夫が課題だと思う。 ・担当者だけでなく各教職員にPTAに興味をもってもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動等振興費にしても生徒会費にしても、部活動を経済的に支えている点で、私費の役割は大きい。当たり前にある支援ではなく、保護者の理解がなければ部活動の支援もままならないことを学校として自覚する必要がある。 ・PTAについて、「担当しかわからない、知らない」という状況を改善しなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校ではPTAと生徒がともに行う活動が少ない。交通安全に関わることや、グリーンサポートなども生徒と保護者、教員で連携してもおかしくはない行事である。少しでもお互いがお互いの活動を知ること、学校全体が一つの歯車になるようにしていきたい。